慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ワーレン・C・スコヴィル 少数者の移住と技術の普及
Sub Title	Warren C. Scoville, "Minority migrations and the diffusion of technology"
Author	渡邊, 国広
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.11 (1952. 11) ,p.810(72)- 811(73)
JaLC DOI	10.14991/001.19521101-0072
Abstract	
Notes	論文紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19521101-0072

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文紹介

ワーレン・C・スコヴィル
『少數者の移住と技術の普及』
(Warren C. Scoville, "Minority Migrations and the Diffusion of Technology", Journal of Economic History Vol.11 No.4 Fall pp. 347–360)

技術の變化は一體如何なる經過を辿るものか。通常この過程は發明・採用そして普及という三つの段階に分劃されるが、最後の普及の過程に關しては從來少しも知られていないから、技術が嘗て波及して行つた狀況を檢討して見たい。この場合外國職人の招聘に依つて新技術が移入され、又時には旅行者が外國技術の導入に貢獻したこともあつたが、然し迫害を避けて亡命した新敎徒が技術の傳播において果した役割には遠く及ばなかつたから、新敎徒が媒介した二つの場合について技術發展の經過を示すことにする。

一五八五年にブントワープが陷落したが、これは北ネーザーランドにとつて劃期的な出來事であつた。スペインの重壓を避けて新敎徒はボーランド、ジーランドの二地方へ移住し、かくして州內の各地に早くも毛織物生產の展開を見た。特にアムステルダム、ロッテルダム、ハーレム及びユトレヒトの繁榮が目覺しく、前貸制に依つて新種の毛織物が大量に生產されるようになつたが、オランダ以外の諸地方に亡命した新敎徒の活動に關しても亦刮目すべきものがあつた。

例えばイギリスに來住した新敎徒についてであるが、亡命者はロンドンに約一萬人、ノーリッチに四千人から六千人、コルチェスターに約千三百人といつた具合に大擧して來住し、又サンドウイッチ、カンターベリー、サザンプトンその他にも多く蝟集して爾後の經濟發展における重要な指導者となつたのであつた。イギリスに幾個もの梳を持つ複雜な織機を紹介したのは實にこの新敎徒であり、又仕上や染色の設備が完成されて、毛織物が未仕上の儘で輸出されなくなつたのも同じ新敎徒の重大な功績の一つに屬したのである。移住者は多く同職組合の束縛を避けて農村に進出し、同職組合が許可した數を相當に上廻る大量の職人を前貸制に依つて統率し、薄手の毛織物の生產に乘出したばかりではない。この人々が傳えた生絲を繰る新方法はイギリスにおいて早くも實用に供され、絹織物の生產が急速に進展し、例えばロンドンにおいては在來の毛織物や麻織物の生產を壓倒する程であつたし、又メードストーンは縫絲の產出地として著名となり、バーンステイプルやデボンシャーにおいてはアントワープから輸入した絹絲を材料とする上質レースが盛んに製造されるようになつた。亡命者はこのほかに窓ガラスやガラス製品の工場をも創設し、又製紙技術の向上に資すること多大であつた。イギリスにおける金屬工業の發展に對する亡命者の功績は無視し難いし、又多くの寶石職人の來住を機に貴金屬の細工技術も大いに進歩した。尙農業に對する貢獻については肥料の使用が敎示されて生產が增大しただけではない。亡命者に依つて新種の根菜や野菜が紹介された程であり、技術の進歩に對する亡命新敎徒の寄與はイギリス一國について見ても實に華々しくもあり又かくも多方面に亙つていたのであつた。

迫害を避けて國外に散住したユグノー敎徒も亦技術の傳播に貢獻した重要な他の一團であつた。亡命者は高度な技術を移住先において活用し、かくして亡命者の散住した如何なる地域においても技術の顯著な發展を見た。一六八五年のナント勅令廢止はフランス經濟を相當に衰退させたが、他面において技術の廣範な普及というかかる大きな結果を伴なつたのであつた。

例えば、ドイツの各地に散住した亡命者がフランスにおいて早くから著名であつたあらゆる種類の工業生產を開始していた。亡命者はドイツの諸都市に絹織物工場を創設したし、またこの國におけるリボン・手袋・レース・毛や絹の靴下・フエルト帽・敷物等の製造の開始も同じ亡命者に纏わる重要な功績の一部であつた。選擧侯も亦フランスからの亡命者に對し絕大な援助を與え、經濟活動に對する支援は三十年戰爭に依る荒廢が甚だしかつた南ドイツにおいてとくに强力であつたが、亡命者の大部分が農民であつたため、工業發展の萌芽が見られても、その後における經過は必らずしも順調なものではなかつた。寧ろドイツの場合、亡命新敎徒に依る影響は農業面において一層著しく、新敎徒の來住を機に耕地は擴大し、桑・煙草・蘭・アスパラガス・花キャベツ・馬鈴薯・高級果樹・大青等が紹介されてドイツ農業は好況を迎えることが出來たのであつた。

亡命者の導入に依つてイギリスも亦多大の影響を蒙つた。早くもロンドンやカンターベリーにはツール・リヨン・ニームの絹織物職人が來住し、ダマスカス緞子・琥珀織・金襴・波紋布・繻子・絹天等が出來るようになつた。イプスイッチにおいては帆布が作られ、冠ガラスや板ガラスの工場が增設された。キャラコ捺染法・良質紙の製法も同時に傳わり、當時イギリスにおいてはフランスの技術が非常に尊重され、「フランス語の名入がなければ何も賣ることが出來ない」程であつたのである。

(渡邊國廣)

ヴァレリ・モラン
『第十六世紀のメードストーンに對する亡命新敎徒の定住』
(Valerie Morant, "The Settlement of Protestant Refugees in Maidstone during the Sixteenth Century", Economic History Review Second Series, Vol. IV, No. 2, 1951. pp. 210–214)

スペイン王フィリップ二世の迫害を避けてネーザーランドの新敎徒は大擧各地に散住した。これ等の亡命者は一般にリンネ